

日本学習社会学会

第18回大会プログラム

2021年8月28日（土）・8月29日（日）

常葉大学第18回大会実行委員会

日本学習社会学会第 18 回大会の開催にあたって

皆様におかれましては、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。

日本学習社会学会第 18 回大会を常葉大学（静岡草薙キャンパス）で、2021（令和 3）年 8 月 28 日（土）～8 月 29 日（日）に開催させていただくことになっておりました。しかし、新型コロナウイルスへの感染リスクが高まっていることから、皆様の安全を第一に考慮し、理事会での検討を踏まえて、以下のように変更させていただくこととなりました。

- 1) 第 18 回大会に関しては、常葉大学（静岡草薙キャンパス）会場における開催は行いません（そのため、宿泊予約をされている方はキャンセルをお願いいたします）。
- 2) 第 18 回大会に関しては、オンライン（Zoom、ウェビナー）にて行うことになりました。

皆様の安全確保を最優先に考え、このような決断をさせていただきましたことを、何卒ご理解賜りますようお願い申し上げます。

JR 草薙駅北口（静岡駅から 2 駅）に開設されたばかりの常葉大学の静岡草薙キャンパスに会員の皆様を迎えて、本学において 14 年ぶりになる学会大会を楽しみにしておりましたので大変残念ですが、改めてオンラインによる大会開催の準備をしたいと思います。オンラインになったことで、時間帯を変えて 3 つの課題研究も視聴していただけるようにしました。発表者のリハーサルも行います（以下、※）。

大会実行委員会委員一同、多くの皆様にご参加いただけますことを楽しみにしています。

日本学習社会学会第 18 回大会 大会実行委員会

大会実行委員長	堀井 啓幸
事務局長	白鳥 絢也
委員	鈴木 守
	星野 洋美
	宇内 一文

※オンライン発表へ参加される方は、発表開始時にはマイクをミュートにして臨んでください。（発表者を除く）また、カメラでの顔出しもご遠慮ください。（発表者を除く）

※発表の録画はご遠慮ください。

※ご発表の先生方のリハーサルについて

なお、自由研究発表、課題研究、公開シンポジウムにご発表の先生方に以下の日程にてリハーサルの時間も設けましたのでアクセスしてください。

- 8 月 26 日（木）午後（13 時～17 時）／27 日（金）午前（10 時～12 時）
- 課題研究 2（国際交流委員会企画）は別途行われるとのことです

日本学習社会学会 第18回大会オンラインによる発表

(理事会・委員会を含む) ご案内

1 開催要項

【期 日】 2021年8月28日(土)・29日(日)

【会 場】 静岡県内在住の参加者を除き、基本的に Zoom。

【参加費】 無料。但し、非会員で静岡県内在住の参加者は、資料代として500円徴収させていただきます。

【静岡県内参加者の条件】

静岡県内に在住されている方で、本大会に参加できる会場は、29日(日)の「課題研究3」と「公開シンポジウム」になります。感染対策徹底のため、参加をご希望の方は、大会1週間前までに以下のアドレスまで事前に連絡し、ご登録が必要になります。

・課題研究3：[担当・鈴木 守] sonnette@sz.tokoha-u.ac.jp

・公開シンポジウム：[担当・星野 洋美] hhoshino@sz.tokoha-u.ac.jp

各 Zoom への入室：各会場には15分前には入れます

【大会プログラム】

・Zoom のミーティング ID、パスコード、ウェビナーID は【別紙】をご参照ください。

月 日	9:30 10:30	12:00	13:30	16:30	18:30
8月28日 (土) 12:00~受付		各種委員会 日大 Zoom ①②	受付 B棟 201 教室前 理事会 日大 Zoom	自由研究発表 Zoom ①②③④⑤	課題研究 1 Zoom
8月29日 (日) 9:00~受付		課題研究3 第5会議室 Zoom	昼食： 弁当	13:00 16:00 公開シンポジウム 第5会議室 Zoom	課題研究2(海外からの オンライン発表を含む) Zoom

・上記【大会プログラム】の Zoom の詳細は、以下の通りです。

各種委員会の開催：①国際交流委員会、②研究推進委員会

自由研究発表：①自由研究発表Ⅰ、②自由研究発表Ⅱ、③自由研究発表Ⅲ、
④自由研究発表Ⅳ、⑤自由研究発表Ⅴ

2 オンライン大会に関する問い合わせ先

〒156-8550 東京都世田谷区桜上水 3-25-40

日本大学文理学部教育学科気付

TEL：03-5317-9370 (事務局長田中謙研究室直通)

FAX：03-5317-9425 (日本大学文理学部教育学科)

Mail: slearningsociety@gmail.com

※オンライン参加に関しましては、改めて学会 HP でもお知らせいたします。

自由研究発表 I

日本大学 第1会場
8月28日(土) 13:30~16:30

司会 金山 光一(早稲田大学)
富士原 雅弘(日本大学)

【1】13:30~13:55

アクティブラーニングで行う大学の授業改善

—オンライン、対面授業の中で全学生参加による全体討論を通して—

金山 光一(早稲田大学非常勤講師)

【2】13:55~14:20

自己評価(自己肯定感)を巡る一考察

—児童生徒及び大学生を対象にした自己肯定感調査を通して—

末吉 雄二(日本工業大学)

【3】14:20~14:45

島根県奥出雲発 子ども落語を通じた地方創生の試み3

川上 宣久(奥出雲町立高尾小学校)

【4】14:45~15:10

外国につながる子どもの教科学習支援を行った中国人支援者の意識

—母語による支援活動を通して—

宇津木 奈美子(帝京大学)

【5】15:10~16:00

地域の伝統芸能の伝承について

—大学生による文化的レジリエンス・プラットフォームプロジェクトから—

○田島 喜代美(浜松学院大学)

○津村 公博(浜松学院大学)

16:00~16:30 共同討議

自由研究発表Ⅱ

日本大学 第2会場
8月28日(土) 13:30～16:30

司会 栗原 幸正 (高崎健康福祉大学)
田中 謙 (日本大学)

【1】 13:30～13:55

「地方学力テスト」と「業者テスト」～なぜ「業者テスト」は普及したのか～

北野 秋男(日本大学)

【2】 13:55～14:20

教員の長期派遣研修における学びの特質

田中 謙(日本大学)

【3】 14:20～14:45

教職キャリア形成の基礎となる養成段階における指導の体系化に関する研究

山崎 保寿(松本大学)

【4】 14:45～15:10

幼児教育 ESD フォーラムの実施とフォローアップに関する省察的研究

田宮 縁(静岡大学)

【5】 15:10～16:00

校長のサーバント・リーダーシップの重要性に関する一考察

—地域学校協働活動を推進する学校を対象として

○西村 彩恵(東京福祉大学)

○西村 吉弘(國學院大学教育開発機構兼任講師)

16:00～16:30 共同討議

自由研究発表Ⅲ

日本大学 第3会場
8月28日(土) 13:30～16:05

司会 柴田 彩千子(東京学芸大学)
佐久間 邦友(日本大学)

【1】13:30～13:55

静岡の文化資源としての小泉八雲

那須野 絢子(常葉大学)

【2】13:55～14:20

地域の食文化を題材とした世代間交流講座の構築

—実施前アンケート調査分析を中心として—

手塚 貴子(金沢星稜大学女子短期大学部)

【3】14:20～14:45

ファミリー・サポート・センター事業におけるコーディネーターの研修～横浜市の実践事例～

井出 志穂(日本女子大学学術研究員)

【4】14:45～15:10

子育て中の親はなぜ美術館利用を敬遠するのか:子育て世代の外出不安に着目して

内海 美由紀(日本大学非常勤講師/日本博物館教育研究所)

【5】15:10～15:35

新型コロナウイルス感染症の影響下における学習塾の実態に関する研究

佐久間 邦友(日本大学)

15:35～16:05 共同討議

自由研究発表Ⅳ

常葉大学 第1会場
8月28日(土) 13:30~16:30

司会 岩崎 正吾(首都大学東京名誉教授)
白鳥 絢也(常葉大学)

【1】13:30~13:55

中国における官製 NGO と草の根の NGO による教育支援に関する対比分析
—政治性と公益性を統合する官製 NGO を中心に—
劉 琦(早稲田大学大学院・院生)

【2】13:55~14:20

幼稚園及び認定こども園における外国人幼児への配慮に関する考察
—多文化共生の視点から—
島 美佐子(早稲田大学大学院・院生)

【3】14:20~14:45

共生を支える市民参加型協働プロジェクトの試み
—外国につながるのある子どもたちの教育に関する調査を踏まえて—
星野 洋美(常葉大学大学院)

【4】14:45~15:10

多文化共生と教育コミュニティを架橋する新たな課題と試み—大阪生野区を事例として—

今井 貴代子(大阪大学)

【5】15:10~16:00

多文化共生ファシリテーターの育成に向けた基礎研究 その2
○良知 恵美子(常葉大学)・○増井 実子(常葉大学)・○谷 誠司(常葉大学)
・○白鳥 絢也(常葉大学)・○江口 佳子(常葉大学)・○那珂 元(常葉大学)

16:00~16:30 共同討議

自由研究発表V

常葉大学 第2会場
8月28日(土) 13:30~16:05

司会 堀井 啓幸(常葉大学)
鈴木 守(常葉大学)

【1】13:30~13:55

耳からお話を届けたいーおはなしつむぎの会の活動についてー

山田 いづみ(浜松市役所)

【2】13:55~14:20

フィンランドの市民カレッジが提供する生涯学習講座に見られる特徴
ー講座内容、開催時間、開催場所、受講料に着目してー
大谷 杏(福知山公立大学)

【3】14:20~14:45

新型コロナウイルス感染症対策に関する意識、行動変容について

金子 弘(日本学習社会学会会員)

【4】14:45~15:10

コミュニティ・スクールの発展過程における「熟議」の可能性
ーX小学校「ふるさと大好き」ワークショップの事例からー
安井 智恵(北海道教育大学大学院)

【5】15:10~15:35

児童生徒の安全・安心と学校建築
ー2020年度国立教育研究所「児童生徒の安全・安心と学校空間に関する調査」からー
堀井 啓幸(常葉大学)

15:35~16:05 共同討議

課題研究 1 (研究推進委員会企画)

コミュニティ・スクールの最新動向と 持続可能な運営体制にむけた課題 ーコミュニティ・スクールの運営・意識・取組等に 関する基礎的調査をふまえてー

8月28日(土) 16:30~18:30

研究推進委員長 志々田まなみ (国立教育政策研究所)

<趣旨>

平成29年の「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」の改正により、学校運営協議会の設置が努力義務とされた。このことが、教育委員会のコミュニティ・スクールの普及や定着に向けた取組に何らかの影響を与えていることは、容易に想像することができるだろう。本課題研究は、まず、令和2年度に文部科学省の委託研究として実施された「コミュニティ・スクールの運営・意識・取組等に関する基礎的調査」をはじめとする研究成果をもとに、現段階のコミュニティ・スクールの全国的な実態と顕在化している課題について明らかにする。それらを踏まえたうえで、登壇者それぞれの立場から、持続可能な連携・協働体制の構築に向けた提案を行うこととする。

登壇者には以下の4名を予定している。前述の基礎的調査を受託、実施した三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社の阿部剛志氏と永野恵氏には全国実態調査の結果から、鈴木廣志会員にはコミュニティ・スクールの運営にかかわってきた学校管理職としての経験から、西祐樹会員には、コミュニティ・スクールの設置や運営にかかわってきた教育行政職員としての経験から、学校と地域社会による協働体制や取組の成熟に向けた提案を行う。

<登壇者(予定)>

阿部 剛志 氏	三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社 政策研究事業本部 公共経営・地域政策部 部長 主任研究員
永野 恵 氏	三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社 政策研究事業本部 公共経営・地域政策部 研究員
鈴木 廣志 会員	栃木市地域政策課 栃木公民館係 社会教育指導員 文部科学省 CS マイスター
西 祐樹 会員	春日市役所 文部科学省 CS マイスター
コーディネーター:	志々田 まなみ 会員 国立教育政策研究所

課題研究 2 (国際交流委員会企画)

学校教育と公共図書館の連携による 子どもたちの学びのかたち

8月29日(日) 16:00~18:00

国際交流委員長 赤尾勝己(関西大学)

<趣旨>

2000年から始まった「総合的な学習の時間」では、児童・生徒が、板書中心の受け身の学びから、調べ学習を取り入れた、より能動的な学びが推奨されてきた。現在、日本の学校では、ほとんどの教科においてアクティブ・ラーニングが推奨されつつある。

そこで今回、国際交流委員会では、日本、デンマーク、アメリカで、学校と公共図書館が連携しながら、子どもたちの学びがどのようなかたちを創っていこうとしているのか、子どもたちの学びがどのように変容しつつあるのか、その動向について探る機会を設けた。

報告者として、デンマークの地で図書館司書を務めている沢広あや氏、アメリカの図書館研究で研究を重ねてこられた獨協大学教授の井上靖代氏、横浜市で公立図書館と学校図書館の連携の実践にかかわってこられた坪内一会員の3名の登壇をお願いすることになった。これら三国において、どのような相違がみられ、それが今後の子どもの学びにどのように引き継がれていくのかについて、参加者間で意見交換ができればと考える。

なお本課題研究では、沢広氏の現地デンマークからの参加を含めて、すべて Zoom による報告とする。

プログラム

企画趣旨の説明：赤尾勝己

司会：大野順子(摂南大学) 赤尾勝己(関西大学)

報告者

報告① 沢広あや(図書館司書・デンマーク在住)

「デンマークにおける公立図書館の学校・地域支援」

報告② 井上靖代(獨協大学)

「アメリカ都市部と地方における公共図書館の学校への支援および学校図書館の位置づけ」

報告③ 坪内一(司書・元横浜市中央図書館)

「教員・生徒・図書館員で取り組むビブリオバトル
～読書のアクティブ・ラーニング～」

(順不同・敬称略)

質疑応答

課題研究 3 (本学大会実行委員会企画)

生涯学習の基盤を形成する学校図書館像を考える その2

ーカリキュラム・マネジメントとの関わりからー

8月29日(日) 9:30~11:45

<趣旨>

学校図書館は、教育課程の展開に寄与するとともに、児童生徒の健全な教養を育成することを通して学校教育を支援し生涯学習の基盤を形成する役割を担ってきた。

第17回研究大会の課題研究2『生涯学習の基盤を形成する学校図書館像を考えるー生涯学習の基盤を形成する学校図書館像を考える』では、学校図書館が教育や地域において、どのような役割を果たすべきか、2030年の学校教育を見すえた教育課程との関わりにおいて今後の方向性を明らかにするために、学校建築、教育行政、社会に開かれた教育課程等の観点から笠井尚氏、河原崎全氏、磯部真代氏の3名の登壇者による報告と議論が行われた。

本年度の課題研究では、特に「カリキュラム・マネジメント」の視点から、学校図書館が教育や地域において果たすべき役割を改めて検討する。昨年度の登壇者に引き続き課題研究への参加をお願いするとともに、学校図書館とカリキュラム・マネジメントに司書教諭として実践を重ねられてきた小谷田照代氏にも新たに本課題研究に加わっていただいた。

カリキュラム・マネジメントなど教育課程との関わりにおいて現状や課題について事例を踏まえて明らかにすると共に、今後の学校図書館の方向性を示唆できればと考えている。

<登壇者・報告者(予定)>

報告1: 学校の活動を豊かにする学校図書館の環境整備

ー課題解決支援型の学校図書館をどうつくるかー

笠井 尚 (名城大学)

報告2: 「自主的自発的な学習活動及び読書活動の推進 その2

ー学校図書館と市立図書館との連携ー

河原崎 全 (御前崎市教育委員会)

報告3: 「つながる学校図書館プロジェクト」の実践から

ーカリキュラム・マネジメントから描く学びの地図ー

磯部 真代 (浜松市立与進北小学校)

報告4: .司書教諭がかかわるカリキュラムマネジメント

ー学力保証に学校図書館はどう寄与するかー

小谷田 照代 (元・沼津市立静浦小中一貫学校)

コーディネーター: 鈴木 守 会員 常葉大学

公開シンポジウム

多文化共生社会における学校と地域の役割

外国につながるのある子どもたちの教育支援を考える
ー浜松市と菊川市の事例からー

8月29日（日）13:00～16:00

趣旨

1990年の改正出入国管理及び難民認定法（以下、改正入管法と記載）施行より増加傾向にあった外国人労働者およびその家族の長期滞在や定住化が進み、多文化共生が必至となった静岡県の状況を受け、本学において2007年に「学習社会と共生ー静岡県の事例からー」をテーマとしたシンポジウムを行った。

それから14年、外国人労働者の受け入れ拡大に向けた新たな改正入管法が2019年に施行され2年が経過した現在、静岡県は多文化共生社会構築の新たなステージに入っている。そこで、この8月に本学で開催される日本学習社会学会第18回大会では、時代を経て進化しつつある静岡県の多文化共生社会の今をテーマにシンポジウムを行うこととなった。前回のシンポジウムでは、外国につながるのある子ども達の将来は学校と地域の連携に託されており、多文化共生の実現は学習社会に課せられた重要な役割であることが示されて幕を閉じたので、本大会のシンポジウムでは、この14年間でどんな形での進歩がみられたのかを示すことを目的に、全国的にも先駆的な実践を行っている静岡の今を提示したいと考えた。

今回は、外国につながるのある子どもたちへの教育的支援の取組（静岡県の2つの事例）について報告をおこない、地域と学校が協働しながら子どもをどう支援し共生社会をつくるのかを参加者とともに考えていきたい。

シンポジスト（報告者・助言者）

浜松市立江南中学校	吉田拓司 氏
浜松市教育総合支援センター	古橋水無 氏
菊川市役所 総務部 地域支援課	山崎雄太 氏
虹の架け橋 菊川小笠教室	菅野真紀 氏
菊川市子ども政策課 放課後児童クラブ	太田理恵 氏
東京未来大学	田中真奈美 会員

コーディネーター・プロデューサー

常葉大学大学院	星野洋美
常葉大学 健康プロデュース学部	宇内一文

日本学習社会学会
第18回大会 プログラム

2021年7月30日発行

日本学習社会学会第18回大会実行委員会
〒422-8581 静岡市駿河区弥生町6番1号
常葉大学教育学部

TEL : 054-297-6100 FAX : 054-297-6101

堀井啓幸

印刷・製本 (株)篠原印刷所

内閣府所管 公益財団法人

日本教材文化研究財団



当財団は、学校教育、社会教育及び家庭教育における教育方法に関する調査研究を行うとともに、学習指導の改善に資する教材・サービス等の開発利用をはかり、もってわが国の教育の振興に寄与することを目的としています。

- (1) 学校教育、社会教育及び家庭教育における学力形成に役立つ指導方法の調査研究と教材開発
- (2) 家庭の教育力の向上がはかれる教材やサービスの調査研究と普及公開
- (3) 前二号に掲げる研究成果の発表及びその普及啓蒙
- (4) 教育方法に関する国内外の研究成果の収集及び一般の利用に供すること
- (5) 他団体の検定試験問題及びその試験に関係する教材の監修



◀当財団発行の調査研究シリーズ

内閣府所管 公益財団法人 日本教材文化研究財団

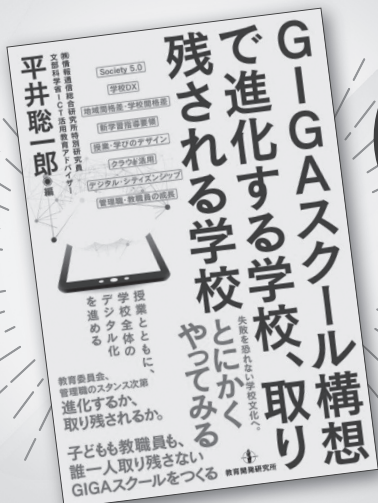
〒162-0841 東京都新宿区払方町 14-1

TEL : 03-5225-0255 FAX : 03-5225-0256

<https://www.jfecr.or.jp>

GIGAスクール構想で 進化する学校、 取り残される学校

子どもも教職員も、
誰一人取り残さない
GIGAスクールをつくる!



緊急出版!
8月下旬
発売!

編集
平井聡一郎
文部科学省ICT
活用アドバイザー

本書の内容

- 1章 GIGAスクールを失敗させないために
- 2章 学校全体のICT化を進める
- 3章 授業・学びのICT化を進める
- 4章 成功の鍵を握る学校管理職
- 5章 成功する自治体、失敗する自治体
- 6章 GIGAスクールのその先へ
- 7章 これで解決! GIGAスクール1問1答

四六判 / 約220頁 / 定価2,420円(本体2,200円+税10%)



教育開発研究所

送料無料・即日配送!!

オンラインショップ

教育開発研究所

検索

生涯学習概論

佐藤 晴雄 [著] 定価 2,750円(税込)
A5判 240頁 2020年3月刊

●生涯学習および社会教育の歴史にはじまり、今後の問題までを、バランス良く、平易な書き方で概括した基本図書。
●社会教育調査をはじめ必要なデータや資料をきちんと押さえたバランスの良い内容。



第2次
改訂版

現代教育概論

佐藤 晴雄 [著] 定価 2,640円(税込)
A5判 260頁 2021年3月刊

●教育学の基礎理論を踏まえながら、現代の教育改革をめぐる動向や教育課題を考察。単なる概論書にとどめず、最新の実践的事項を詳述。
●初学者のテキストに、また教職採用試験の参考書に最適。

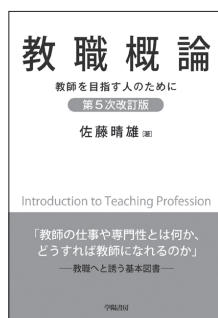


第5次
改訂版

教職概論

佐藤 晴雄 [著] 定価 2,640円(税込)
A5判 240頁 2018年3月刊

●教職に就こうとする学生や教職導入単位を教える先生からの圧倒的な支持を受けている1冊!
●教育改革に伴う法改正や制度改革を盛り込み、資料等を最新データに更新。
●「教育実習総論」のテキストとして、また、採用試験対策の参考書として最適。



教師を目指す人のために
〈第5次改訂版〉



学陽書房

〒102-0072 東京都千代田区飯田橋1-9-3
TEL: 03-3261-1111 FAX: 03-5211-3300 ●HPはこちら

